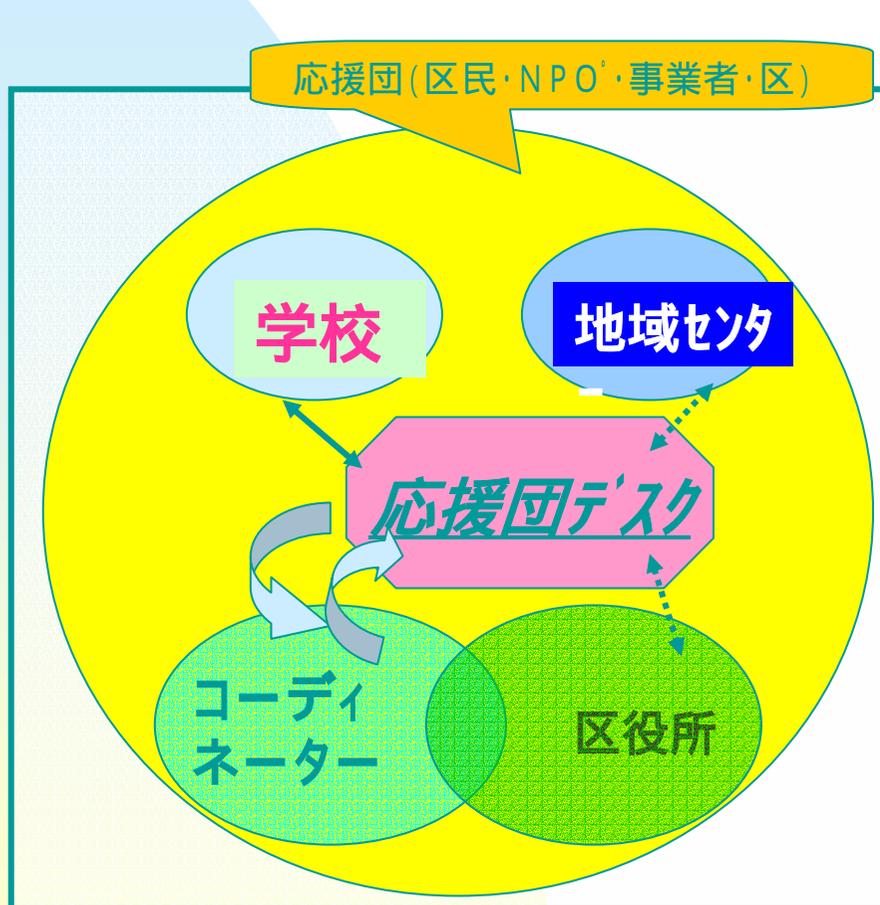


「新宿の環境学習応援団」プロジェクト概要



活動のポイント

1. 人材の登録
 - ・企画と計画
 - ・参加者の促進
 - ・つなぎ役と調整
 - ・リーダー役
2. 環境学習プログラム
 - ・ねらいを明確に
 - ・学習プログラムの整備
 - ・教材の定期的評価
3. 場や機会の拡大
 - ・各種施設の活用
 - ・連携方策の検討
4. 連携強化
 - ・連絡会の開催
 - ・協働・連帯事業
 - ・情報収集



- 参加団体：
行政機関、事業者、NPO等
- 展示内容：
協働による活動事例発表
公開授業
もの作りの体験、体感
資料展示、相談コーナー
焼き芋、豚汁コーナー



活力ある活動の特徴

- 独自性:地域の課題解決をめざす
- 連携:市民・事業者・行政との協働
- 継続性:活動の発展性
- 次の世代:環境学習・こども活動支援
- まちづくり: 足元の課題から広げ、快適に暮らせるまちづくりへの広がり
- 経済性:コミュニティービジネスへの視点

- (熱意あるキーマンと、人と人の環)
- (大学や専門研究者との連携)

パートナーシップをつないで 循環型地域をつくるNPOの役割

- 総合的な視点で、各主体の信頼をつなぐ
- 情報交流： 企業と消費者の環境コミュニケーション推進。 グリーンコンシューマーの賢い選択で、環境配慮企業を応援。
- 環境学習・実践活動：くらしや地域を視点に、学校やこどもたちの環境活動を応援
- 協働： 行政との連携で市民参加推進
- 研修： 地域の環境活動人材の育成

「環境と経済の好循環」創造に向けた 生活者・NPOからの提言

- 消費者への情報提供：
生活に密着した環境商品情報・投資情報の整備。環境報告等のわかりやすい発信
- 市民の視点・意見を事業活動に生かす
- 廃棄物処理・循環事業・化学物質などの
リスクコミュニケーションの徹底
- 事業活動を含めた環境学習内容の整備
- 国連「持続可能な教育の10年」との連携
- 地域ビジネス自立に向けた支援
- つなぎ手としてのNPOの活用

- 
- スウェーデン政府・企業・NPO・市民の化学物質リスク削減対策に学ぶ『環境と経済の好循環』戦略

化学物質リスクゼロめざす 政府と企業のポジティブ思考

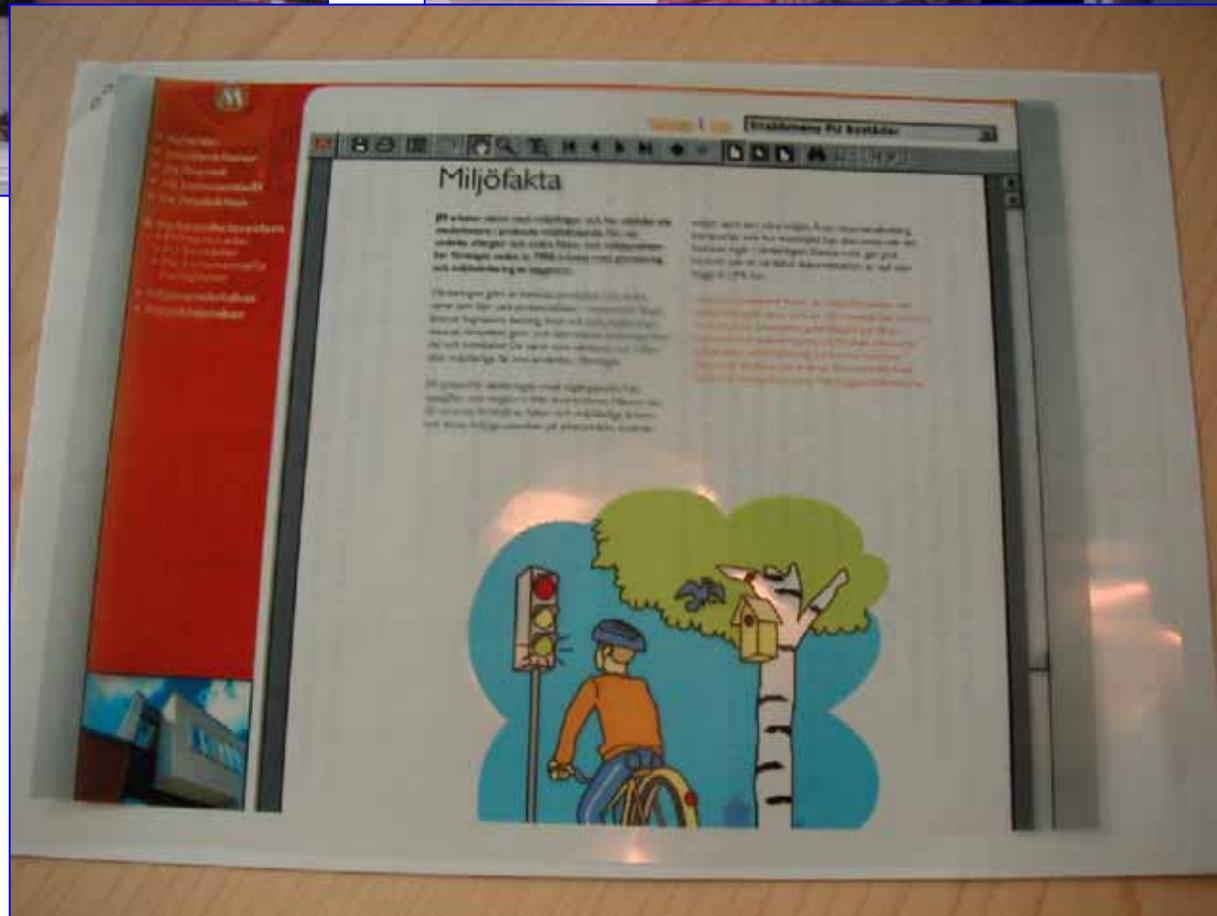
- リスク削減に向けた情報整備と環境ラベルを、ブランドの信頼性とグリーン購入に直結させる、戦略的社会連携
- 化学物質検査院～政府目標を推進
2020年化学物質リスクゼロ

データベース整備を顧客信頼性につなぐ住宅メーカー「JM社」

- 化学物質2000種をデータベース化
住宅販売時に使用物質リストを提示し
ブランドの信頼性を確保
エコファンドの対象として金融が評価
- 建設業界のリスク削減姿勢の徹底
部品・材料の化学物質データを共有
環境ラベル「BEST」マークを計画中



ストックホルムの住宅
メーカーJM社は、顧客
に、使用した建材・塗
料・接着剤などに含ま
れる化学物質データ
を公開している。



企業のポジティブ思考を支える 「賢い選択」への消費者の意欲

- 環境NGO「自然保護協会」
化学物質削減を訴え
企業に消費者の選択のための環境ラベルを提案
環境ラベル「ファルコンマーク」運用
- 消費者の賢い選択意欲が重要
消費者への啓発キャンペーンを重視